片頭痛と緊張型頭痛の診断における頭痛チェックシートの有用性の検討

静岡赤十字病院 神経内科
今井 昇 鈴木洋司 鈴木 均
芹澤正博 岡部多加志

埼玉医科大学 神経内科
濱口勝彦

要旨：
目的：当院神経内科外来では頭痛診療補助に問診表，頭痛チェックシート，頭痛日記などを使用している．特に頭痛チェックシートは短時間に簡便に行え，診断補助に有用な印象を持っている．そこで実際に頭痛チェックシートがどの程度頭痛の診断に有用であるか検討した．
対象：4月30日から9月25日まで頭痛初診患者のうち，チェックシートをつけてもらった27例（男性4例，女性23例，平均年齢42.8歳）
結果：27例の診断は，片頭痛のみ9例，緊張型頭痛のみ11例，片頭痛と緊張型頭痛の合併4例，症候性頭痛3例であった．各疾患のチェック項目の数は，緊張型頭痛と非緊張型頭痛，片頭痛と非片頭痛いずれも有意な差を認めた（$p=0.0076$，$p<0.0006$：Mann-Whitney のU検定）．またチェック項目の内容は緊張型頭痛では性状，随伴症状，頻度の3項目が，片頭痛では部位，強さ，体動による増悪，随伴症状，頻度の5項目で有意差を認めた．
結語：頭痛診断に頭痛チェックシートが有用であることが示された．

Key words：頭痛チェックシート，片頭痛，緊張型頭痛

I．緒　言

現在頭痛の診断は1988年に作成された国際頭痛学会の「頭痛，頭蓋神経痛，顔面痛の分類および診断基準」[1]に基づいて行われる．神経内科外来で見る頭痛疾患は片頭痛と緊張型頭痛が大半を占め[2]，これらの疾患の診断は症候性頭痛を除外した後，頭痛の内容が診断基準の各項目に一致しているか確認して行うが，そのためには正確で詳細な病歴聴取が重要となる．しかしながら多くの患者は頭痛の発作時間や随伴症状などを把握していないため実際にこれらの診断基準の内容を聴取していくことは大変時間のかかる作業である．そのため，現在頭痛診療補助に問診表，頭痛チェックシート，頭痛日記などを使用している．問診表は具体的な内容を記載できる点で優れているものの，知りたい情報が殆ど記載されていなかったり，記載内容と聴取した病歴と内容が一致しないなどの問題点がみられた．頭痛チェックシートは片頭痛，緊張型頭痛，群発頭痛の3種類の頭痛疾患について部位，性状，強さ，体動による増悪の有無，随伴症状，頻度の6項目の特徴が記載されたカードで，当てはまる項目はビンゴカード型式で穴を自分で開けてチェックしていくものである（図1）．この頭痛チェックシートは短時間に簡便に行えるうえに問診表よりチェックした項目と実際の問診との相違が少なく，診断補助に有用な印象があった．このためこの頭痛チェックシートが実際にどの程度緊診断に有用であるか検討を行った．

II．対象と方法

対象は，4月30日から9月25日まで頭痛初診患者のうち，チェックシートをつけてもらった27例（男性4例，女性23例，平均年齢42.9±21.4歳）．なお頭痛チェックシートは全例診察前に自分で当て

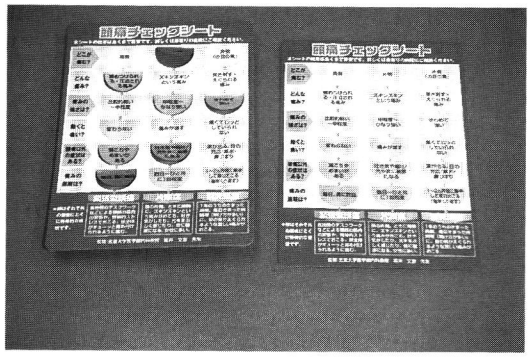

図1　頭痛チェックシート
頭痛チェックシートには片頭痛，緊張型頭痛，群発頭痛の3種類の頭痛疾患について部位，性状，強さ，体動による増悪の有無，随伴症状，頻度の6項目の特徴が記載されている．当てはまる項目をビンゴカードの様に自分で穴を自分で開けてチャックしていく．右が穴を開ける前，左がいくつかの項目について穴を開けた状態である．

はまることころにチェックしてもらうことで，診察による影響を除外した．頭痛の診断は問診より聴取した病歴より国際頭痛学会の分類に従って行い，これらの診断を片頭痛，緊張型頭痛，症候性頭痛に分類した．そして各疾患ごとにチェックシートにチェックした数とチェックした項目について検討を行った．

III. 結　　果

診断は片頭痛と緊張型頭痛の合併が4例あり，延べ人数として片頭痛13例，緊張型頭痛15例，症候性頭痛3例の計31例となった．

各疾患におけるのチェック項目の数については，緊張型頭痛では緊張型頭痛患者3.53±1.06，非緊張型頭痛2.00±1.48で有意に緊張型頭痛患者が多くチェックしていた（P＝0.0076：Mann-WhitneyのU検定）．また同様に片頭痛では片頭痛患者4.23±1.30，非片頭痛患者1.50±1.70で有意に片頭痛患者が多くチェックしていた（P＜0.0006：Mann-WhitneyのU検定．

チェック項目数を表にして検討を行ったところ，緊張型頭痛では4項目以上チェックした患者は全例緊張型頭痛であり，また1項目以下では緊張型頭痛はいなかった（表1）．更に症候性頭痛を除外した28例で検討したがこの傾向は変わらなかった（表2）．また片頭痛では5項目以上チェックした患者は全例片頭痛であり，また2項目以下では片頭痛はいなかった（表3）．更に症候性頭痛を除外した28例で検討したところ3項目以上チェックした患者は全例片頭痛となった（表4）．

どの項目が鑑別点になるか明らかにするために各項目のチェック数を対象疾患患者と非対象疾患患者で比較したところ，緊張型頭痛では性状：締めつけ

表1　緊張型頭痛のチェック項目数

チェック項目数	緊張型頭痛	非緊張型頭痛
6	1人	0人
5	3人	0人
4	5人	0人
3	5人	3人
2	2人	3人
1	0人	3人
0	0人	2人

表2　症候性頭痛を除いた緊張型頭痛のチェック項目数

チェック項目数	緊張型頭痛	非緊張型頭痛
6	1人	0人
5	3人	0人
4	5人	0人
3	4人	2人
2	2人	3人
1	0人	3人
0	0人	2人

表3　片頭痛のチェック項目数

チェック項目数	片頭痛	非片頭痛
6	2人	0人
5	6人	0人
4	1人	1人
3	4人	1人
2	0人	1人
1	0人	8人
0	0人	3人

表4　症候性頭痛を除いた頭痛のチェック項目数

チェック項目数	片頭痛	非片頭痛
6	2人	0人
5	6人	0人
4	1人	0人
3	4人	0人
2	0人	1人
1	0人	7人
0	0人	3人

表5 緊張型頭痛での項目別の結果

項目	内容	統計結果
部位	両側	N.S.
性状	締めつけられる・圧迫される痛み	p=0.0076
強さ	比較的軽い～中程度	N.S.
体動	変わらない	N.S.
随伴症状	肩こりやめまいがある	p=0.0057
頻度	毎週、週に数回	p=0.0402

表6 片頭痛での項目別の結果

項目	内容	統計結果
部位	片側	p=0.0329
性状	ズキンズキンという痛み	N.S.
強さ	中程度～かなり強い	p=0.0018
体動	痛みが増す	p=0.0004
随伴症状	吐き気や嘔吐・光や音に過敏になる	p=0.0070
頻度	数日～ひと月に1回程度	p=0.0005

表7 混合型頭痛のチェック項目

症例	緊張型頭痛のチェック項目数	片頭痛のチェック項目数
22歳女性	3	4
32歳女性	4	3
35歳女性	3	5
36歳女性	3	5

られる・圧迫される痛み，随伴症状：肩こりやめまいがある，頻度：毎週，週に数回の3項目が緊張型頭痛で有意に多くチェックされていた(表5)．同様に片頭痛で検討を行ったところ部位：片側，強さ：中程度～かなり強い，体動：痛みが増す，随伴症状：吐き気や嘔吐・光や音に過敏になる，頻度：数日～ひと月に1回程度の5項目で有意な差を認めたが，性状：ズキンズキンという痛み，の1項目のみ有意差がなかった（表6）．

緊張型頭痛と片頭痛の合併例ではいずれの症例でも各頭痛に対し3項目以上チェックをしていた（表7）．

IV．考　　察

頭痛チェックシートは緊張型頭痛，片頭痛どちらの頭痛に関しても診断補助として有用であることが明らかになった．緊張型頭痛では4項目以上，片頭痛では5項目以上チェックしていることが目安となり，更に片頭痛では症候性頭痛を除外することで更に区別が容易となった．これは症候性頭痛が髄膜炎や側頭動脈炎など炎症疾患であったため，片頭痛と似たような頭痛を呈していたためと考えられた．

また，項目別の検討からは緊張型頭痛では，3項目で有意差を認め，特に締めつけられる・圧迫される痛み，肩こりやめまいを伴う点が特徴と考えられた．片頭痛は5項目で有意差を認め，従来より特徴とされている「ズキンズキンという痛み」[3]のみ有意差を認めなかったがこれは緊張型頭痛でもこの項目にチェックしている例が多いためで，「ズキンズキンという痛み」の表現は患者から見ると拍動性頭痛を示しているというより全ての頭痛の痛み方を示している言葉として捉えられているものと推測された．

また2種類の頭痛がある患者では，まず患者に2種類の頭痛がある事を自覚してもらい，各々の頭痛の特徴を問診していくため，非常に診察に時間がかかり，また患者が2種類の頭痛を明確に区別できないことも少なくないため，診断そのものが困難なこともある．今回27例中4例で緊張型頭痛と片頭痛の合併例があったが，頭痛チェックシートを利用することで，患者は2種類の頭痛があることを把握しやすくなり，また医師も頭痛チェックシートから2種類の頭痛の存在を疑うことが出来，この点でも頭痛チェックシートは診断補助に有用であると考えられた．

V．結　　語

診察の待ち時間に簡便に行える頭痛チェックシートは，片頭痛および緊張型頭痛の診断補助に有用であった．

文　　献

1）Headache Classification Committee of the International Headache Society : Classification and diagnostic criteria for headache disorders, cranial neuralgias and facial pain. Cephalalgia 1988 ; 8 (Suppl.7) : 9-96.

2）下村登規夫，古和久典，高橋和郎．頭痛の疫学．日内会誌　1993；82(1)：8-13.

3）岩田誠．頭痛および神経痛．神経内科学書（豊倉康夫編集）．東京：朝倉書店：1987.p.775-788.

Headache check-sheet is useful to Diagnosis of Migraine and Tension-type Headache

Noboru Imai, Youji Suzuki, Hitoshi Suzuki,
Masahiro Serizawa, Takashi Okabe
Department of Neurology, Shizuoka Red Cross Hospital

Katsuhiko Hamaguchi
Department of Neurology, Saitama Medical School

Abstract : [purpose] The headache check-sheet is simple selfcheck card for help with diagnosis of headache. The aim of this study was to evaluate the usefulness of the headache check-sheet. [methods] We examined 27 patients (4 men and 23 women, mean age42.8). Diagnosis of headache was according with diagnosis criteria of International Headache Society. [results] Only migraine was diagnosed in 9 patients, only tension-type headache in 11, migraine and tension-type headache in 4, secondary headache in 3. Number of checked items with migraine was significantly large than with non-migraine ($p = 0.0006$), and number of checked items with tension-tyepe headache was significantly larger than with non-tension-type headache ($p = 0.0076$). The items of quality and accompanying symptoms with tension-type headache were significantly more checked than with non-tension-type headache. The items of location, intensity, aggravation by physical activity, accompanying symptoms and frequency with migraine were significantly more checked than with non-migraine. [conclusion] The headache checked-sheet is useful of diagnosis of headache.

Key words : headache check-sheet, migraine, tension-type headache

連絡先：今井　昇；静岡赤十字病院　神経内科
〒420-0853　静岡市追手町8-2　TEL (054)254-4311